

2020年6月16日 速報版

大阪における文化芸術関係者への 新型コロナウイルスの影響に関する実態調査 報告書

【資料：自由記述】

調査主体：一般財団法人おおさか創造千島財団

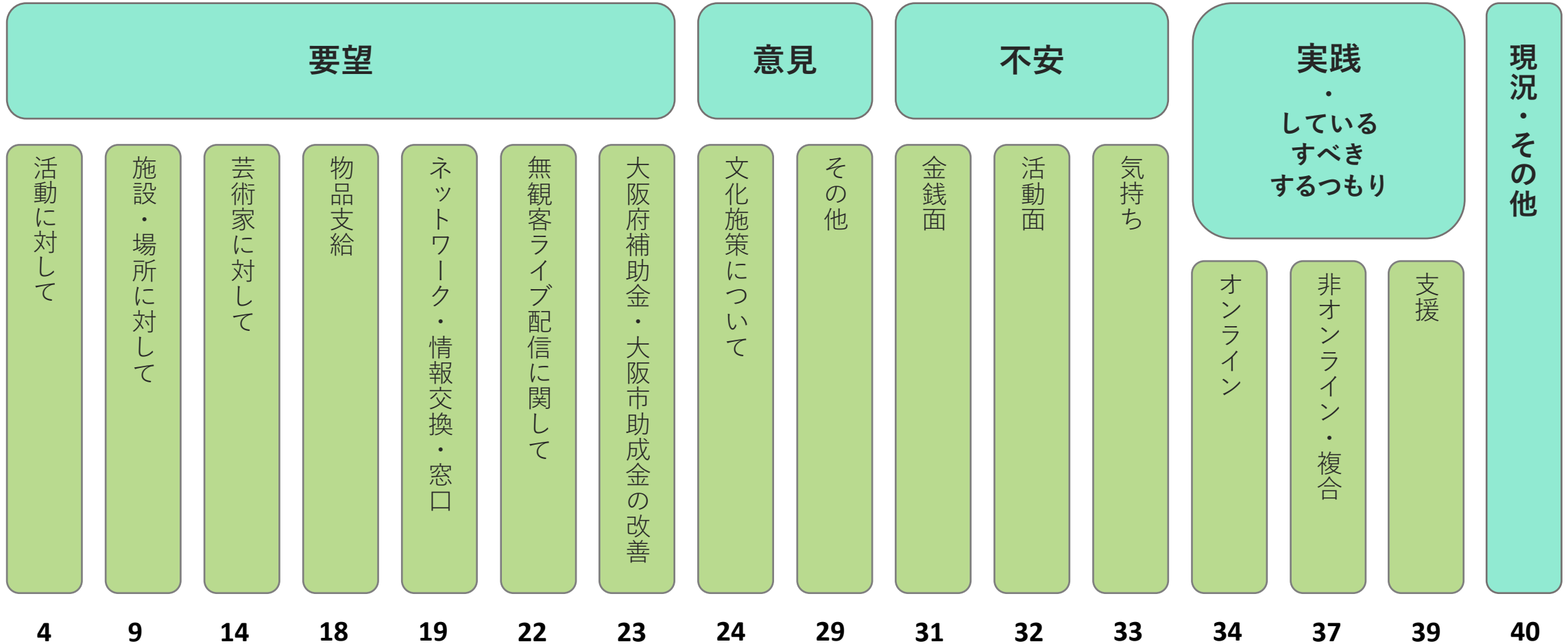
協力：大阪アーツカウンシル

はじめに

この資料は「Q14. 現状に対するご意見や今後の支援策についてのご提案、すで
に実践されている取り組みなどがあれば、ご自由にお書きください」の回答を紹
介するものです。

- ① 有効回答は、個人193件、団体・事業者55件。
- ② 全ての回答をほぼそのまま収録した。ただし③の作業を加えている。
- ③ ほぼ同様のものは一つを除き省略、個人が特定できるものは要約、複合的なものは分割、
誤字脱字を修正した。
- ④ 次ページのとおり傾向ごとに分類し、それぞれにおおむね回答順で記した。
- ⑤ 全体としてメッセージがあるものは原文をなるべく生かした。
- ⑥ 複合的かつ分割できないものは、【要望】に関する記述に注目し分類した。
- ⑦ 体言止め等で時制がわからず、支援への要望かどうかがわからないものは【実践】に分
類した。
- ⑧ 個人は○、団体・事業者は●を文頭につけた。

自由記述の傾向



要望 | 活動に対して（継続、仕組み、支援、補てん） [1/5]

- 文化芸術活動にはもっと手厚い補助、保障をして欲しい
- 公的に近い団体での共催などでオンラインではないイベントの開催実例を増やしてほしい・少し広い会場でスペースのゆとり・期間を短く（1日だけ）・オンラインでの併催・屋外イベントだけど、招待制など。
- オンライン配信以外への支援もしてほしいと思いました。オンライン配信は、代替案の1つでしかないと思います。この1年は、元々企画していたものをどのように実施するかということ、作り手は考えています。しかし、まだまだこのコロナ禍は続くでしょうから、来年度以降は、コロナ禍でも成立する舞台芸術を考えることになると思います。そうすると、オンライン配信とはまた違った実施の仕方を探りたい。オンライン配信と括るのではなく、面白い表現が出てくることを期待して、自由な企画を支援する策を作してほしいです。
- 学校などでの鑑賞・体験の授業などの機会も失われるのではないかと思います。今年度は難しいかもしれませんが、継続できるようガイドラインを作っていく必要があると思います。またオンライン授業等の仕組みが整えば、外部からアーティストが関わることもできるのではないのでしょうか。そういった実験的な授業を組み立ていくための支援があれば良いのではないかと思います。
- 今を生きるための支援とともに、新しい世の中の仕組みを作るための活動への公的支援を強化してもらいたい。
- 現状は、コロナ前の関係性で収支を乗り切る算段であるが、第2波懸念による集客不安が大きい。「気持ち」や「テンション」でモチベーションを維持するのは4か月が限界かと。やはり、資金面での充当が必要不可欠である。
- 今後行われる上演の援助では間に合わず、今、中止になったものを補償しないと継続に支障が出る。また、なんでも年度で区切るのをやめてほしい。延期の場合は何年も先になる可能性が高い。

要望 | 活動に対して（継続、仕組み、支援、補てん） [2/5]

- 2020年内に新型コロナウイルスが収束する気配がないので、1回限りの支援でおしまいにならないように、継続して支援いただける制度を作っていたらとありがたいです。
- 給付金の継続。
- 仕事を回して貰っている事業者には給付金は出るが、そこからこちらには回ってこないで、中止になったイベントの補償を義務化してもらいたい。
- 簡単な申請、迅速な受給が必要
- 舞台監督の会社の社員ですが、このまま公演が無い限り公演が無い限り会社の売り上げはありませんし、残業や時間外の手当があって始めて安定した生活のところ、会社自体休業中ですし普段の月の基本給より低い金額のみでは生活ができません。が、個人事業主でもなければ経営者でもない自分には一律の特別給付金以外で頂ける物はなく、ただ借金を作るだけでどうもできません。逆に何か手立てがないのか伺いたいです。
- 支援と共に活動の再開の補償
- ステージと客席に遮蔽物を置くことは音響、照明共に反射があり出来ないと思いますそのような対策マニュアルがあるように聞くのでそこは削除していただきたいです
- 持続化給付金や特別定額給付金などで、ひとまずの生活は保っているものの貯蓄など切り崩しても半年ぐらいが限界です。その間にアフターコロナ、ウィズコロナと呼ばれる今後の事業展開に対応する新しい形態を生み出すには時間が足りない。過去の経験上、事業を軌道に乗せるまで1~2年は必要だと感じています。その間の更なる給付金は必要で、また前向きチャレンジする為の支援策も不十分だと思います。

要望 | 活動に対して（継続、仕組み、支援、補てん） [3/5]

- 所属する劇団では、リモートでの上演を実施しました。新たな発展や可能性が見えたことは収穫ですが、観客を目の前にし、対面で上演できる環境を強く望みます。機械を通してのやりとりでは、互いの空気感や微々たる変化をつかみにくいです。また、周囲ではフリーランスで活躍する方々や個人事業主の収入がありません。支援がいくつか出てきてはいますが、それは国がお金を支払わずにすむよう、細かく細かく項目が作られていると聞きます。先行きが見えないのはみな同じです。せめて少しでも不安が解消する支援を望みます。
- 支援の申し込みがややこしいのもっと簡潔にしてほしい。
- （意見）私自身が困っていることは多くはないですが、ふだん芸術文化の大事なプレイヤーであるフリーランスの方々、作り手の方々が大きな困難に遭い、しかも補償しなくてもいいだろうと言わんばかりにその存在を軽視されている現状は耐え難いものがあります。現在の状況下では公的な金銭的補償が一番大事だと思います。また、再開に向けた、科学的ファクトに基づいた情報提供とイベント実施ガイドラインの策定を求めたいです。
- 休業要請外支援金
- 速やかな、継続的な現金の支給が必要です。
- 給付金は1回限りでは到底生活ができない。生計が成り立たないと活動も難しい。文化・芸術は決して無駄なものではない。人のところが生き、動き、存在するために必要なもの。保障は必須と考える。
- 芸術は、人々の「心の復興」に重要な役割を担っています。芸術・文化を支える方々は、広く人々の夢や心を支えてくれる役割も担っていると考えています。その方々の生活を支える仕組みが充実されることを願っております。
- わかりやすい制度や仕組みがあれば嬉しい。

要望 | 活動に対して（継続、仕組み、支援、補てん） [4/5]

- 対外的に発信していくためのVR等の映像機器の導入について、美術業界でもカバーできるような支援策を求めている。
- 演劇活動をする上で路頭に迷っていますが活動を再開する上での機を伺っています。
- 今後いつコンサートを開催していいのかわからないので企画が出来ない。
- 子どもの制作活動をサポートするアトリエを手伝っています。子ども達の学校での創造の機会が減る事を懸念しています。いずれは、創作者、鑑賞者へと成長するはずの子ども達の学校環境における芸術関連のカリキュラムについてサポートが必要だと思うし、自分達に出来る事を探していきたいと思っています。
- 私は、盆踊りを活動内容とします。伝統芸能、大衆芸能は、1年実施しなければ、永久に途絶えてしまう可能性があります。そちらが心配ですが、その点については、どういった対策があるのかこれから検討していかないと考えます。
- NPO法人に向けた支援が無い。中小企業と同じように考えられているが実情は違う。
- 給付金、補助金で今後のオンライン公演に関する充実
- 弊社の様な業種（舞台演出・音楽制作・イベント制作）に対する支援、助成金が無いので至急検討して欲しい。
- 中止になった時の支援、演奏者、舞台装置等の方への支援、来年開催出来るよう指針があれば対策を立てやすいです。公共の場所をお借りするので 来年お借り出来て開催出来るかの不安もあります。お客様 スタッフも安全で楽しい企画を作りたいです。準備には初期経費もかかっており、企業様に寄付のお願い等をしておりますがこの現状では厳しく、お願いにあがるのも心苦しい状況です。中止になったイベントにはご支援を要望致します。よろしくお願い致します。

要望 | 活動に対して（継続、仕組み、支援、補てん） [5/5]

- 新型コロナウイルスに対してのワクチンや治療薬ができるまでは、文化芸術団体を存続させるための支援が必要と考える。文化芸術事業に対する支援は安全に活動ができるようになった時点で積極的に行っていただきたい。
- 損失した公演に対する補償や家賃補償を行って欲しい
- 直近の公演のための制度設計
- アーティスト個人制作活動にコロナ影響を受けている人は少ないと思われる。よって個人支援ではなく企画運営サイドへのバックアップが必要。
- 公演をおこなえたとしても、客席を埋めるわけにいかず、チケット収入の減少は避けられないだろう。その分の補填をどのようにおこなうことが可能か、教えてほしい。補填が必要である。
- 従来の形式のイベント実施に加え、VRツアー等の新しい取り組みを検討しているが、あげられている助成金の制度では、法人格や美術関係では申請できないものが多く、イベント中止、延期にまつわる収入減に加え、新しい機器を導入するための資金繰りをどうすれば良いか、協賛金等も合わせて検討中である。

要望 | 施設・場所に対して（劇場、文化施設、公演、教室、ガイドライン） [1/5]

- 少人数向け映画館、劇場、ライブカフェ・バーが継続していくための支援を柔軟に対応してもらいたい。自分が世話になっている店へのドネーションはできるだけはしているが個人では微力でどうにもならないので
- 行政の貸し館がなければ練習もできません。友人とコミュニケーションを取るのも楽しみの1つだったので辛い。
- 席の間隔を開ける必要があり、お客さんが減るので、公演の補助金があればありがたいと思う。
- いわゆる「作り手」のみではない、「観客側」に刺激を与えることで観劇文化を守るための取り組み。
- 小劇場演劇の再開について。劇場減席をしつつ赤字無く公演を打つためにはどうしたらいいのか、ご支援または協力案をご提案いただけると、幸甚です。
- 活動の場として借りていた公共施設が閉館となり、活動が完全にストップしてしまった。緊急事態宣言の解除に伴い再開されたものの、松原市では「発声、息を使う楽器の使用は不可」との条件が付されており、再開できない。大阪府下の他の市町村の状況を調べたところ、条件なしもあれば、音楽室の利用自体が不可のところもある。定員の半数までの利用であれば可。という条件が最も妥当ではないかを感じるが、施設側も明確なガイドラインがなく困惑しているのではないかと思う。「適切な距離を取る」の捉え方が様々なのであろう。演奏や演劇といった人との接触を伴う活動において、十把ひとからげにするのではなく、個々の内容（人数や接触の程度）に応じて照らし合わせることでできるガイドラインが必要ではないかと思う。また、定員半分以下、100人までというのもあまりに漠然としていると思う。
- 事態の収束を願いながら活動の早期再開を開始しはじめます。徹底した感染予防につとめますが不安だらけです。まずは現実性のあるガイドラインの提示と損益の補填など手厚くしていただけると幸いです。収容人数に対しての観客席の間引き数が興業としては成り立たないです、

要望 | 施設・場所に対して（劇場、文化施設、公演、教室、ガイドライン） [2/5]

- オーケストラのエキストラとしての仕事がメインですが、今後しばらくは規模の大きな楽曲も出来ないのでは→エキストラの発注もなくなってしまうのでは、と思ったりしていて、そうなる自分自身の今後の身の振り方も考えねばならず不安です。各オーケストラなりオーケストラ連盟なりが、コロナ後の舞台をどう作っていくのかを示して欲しいと思っています。
- 個人的にはまだ大丈夫だが、劇場やライブハウスなどに支援を充分に行って欲しい。場所がなくなると文化芸術が全体的に衰退してしまう。
- 吹奏楽、吹奏楽器の演奏についての実験を日本でも大学や研究機関、吹奏楽連盟など主導でやってくれないだろうか。もし協力できることがあるなら協力します。
- どうしたら、フラダンスは踊ったら良いのか、2メートルの間隔をあけての場所の確保など不可能。早くガイドラインを示して欲しい。安全に出来る方法を知らない、勝手に始めてしまう教室が出てきて、クラスターが発生してしまう。でも、このような取り組みを日本で最初にしてくださる大阪は素晴らしい。関東から大阪に住んで30年。心は大阪人です。皆様大変だと思いますが、頑張ってください。
- 観客数を制限して公演をすると、入場者収入が減る。その収入を補填する支援が必要。
- ソーシャルディスタンスに配慮すると客席を満席にする事が難しいですが、そうなる公演の採算が取れないと思うので、そのマイナス分を補填する様な支援があると良いと思います。クラウドファンディングや貸付ではなく、政府からの給付金を希望します。対象は、主催でも、個人でも、どちらが対象でも良いかと思っています。
- クラシックコンサートに関する、正確な判断、根拠になる、指針、コーラスの練習の根拠ある指示が欲しい
- 音楽教室の再開についてガイドラインを調べている。グループレッスン再開について悩んでいる。

要望 | 施設・場所に対して（劇場、文化施設、公演、教室、ガイドライン） [3/5]

- 興行自体の延期が決められないため、他の仕事が入れないのが困ります。ある程度のガイドライン、補償があればと思います。
- 劇場が再開されたとして、ガイドライン通りの席数では、大きな赤字になる。目に見える公演中止だけではなく、発表されていない中止も多々ある。様々な支援策も、条件があり、使えないものも多い。大阪府や大阪市が出しているガイドラインの見直しをして欲しい。
- 「客席を定員の半数以下にする」という施策には業界全体で反対してほしいです。
- 劇場存続支援
- まずこのようなアンケートをとっていただいて声を拾っていただけることはありがたいです。劇場や映画館など、そういった場所、これから再開しても満席にできず収入がへり、その上いろんな対策にお金を投じないといけない、そういう大変な状況に対して支援をいただけるとありがたく希望します。また、この日本においてなんとか演劇をはじめ他の何かしらの芸術活動で生計を立てている人たちがどれほど貴重かと思うので、なんとかその方たちの才能を潰してしまわぬよう、活動を続けていけるよう、そういう方たちの支援をお願いしたいです。
- 吹奏楽・オーケストラ・合唱など密集で実施される音楽形態に対する練習・公演実施方法のガイドラインやエビデンスがほしい
- 劇場、市民会館などの催しが再開された時の、感染予防策などのガイドラインを、現場側と制作側に分けて作成してほしい。
- 換気機能を備えた公共施設を稽古場所として広く開放してほしい。

要望 | 施設・場所に対して（劇場、文化施設、公演、教室、ガイドライン） [4/5]

- 演劇の劇場は真っ先に閉まり、1番最後に再開されると思います。それまでに特殊技能では無い、非正規スタッフがどうなるか。
- 国からの明確な指針の発表が遅く感染対策を行った上での公演活動の再開を目指すもその目処が立たなかったこと。
- 仕方ないと思うが、新たに作られたガイドラインでは客席を大幅に減らさなければいけない為、チケットバックで収入を得ている役者は成り立たないと思う
- 劇場の再開と、元通りのキャパシティの確保を望みます。
- これからは、お客さまのソーシャルデスタンスの為、客席をキャパの半分以下にした状態での公演になります。それでは毎回赤字になってしまいます。この分の助成金があれば、私たちの活動は維持出来るかもしれません。宜しくお願いします。
- 意見（愚痴かもしれませんが…）劇場さんの対応が不安…現状、客席を半分にしても正規の料金を頂くと言われた…コロナ禍の状態の3月時点で半年前に半額を支払い、中止にすれば返金されないと言われる…延期なら持ち越し可能…延期にする…しかしその分は新たに半額を負担…最終的に公演を実施すれば前の半額と今回の半額で返ってくるのですが、それは満席状態の見積りで観客50%しか入れられないのならとんでもない赤字を抱える事になる…中止で全額を返金してくれたら仕切り直せたのになと思う。劇場は最低でも1年先、ないしは2年先には抑えているので、そんな状態を繰り返せば劇団は負のスパイラルに陥ってしまう…ある劇場さんはコロナで公演の中止が相次ぐ時でも我々は公演中止の打診と交渉を行っていたのにギリギリまで中止にしたら返金なしなので公演を打てと言う…公演日1ヶ月前突然劇場サイドから中止を言い渡される…いらぬ時間と宣伝費、活動費などがかさんでしまいやりきれない気持ちになった…各劇場が満席でも対応できるよう設置の援助をしてもらえれば嬉しい…お客様が安心して観に来て頂ける空間であれば劇団はなんとかなると思う…
- 施設の貸室キャンセルに係る利用者へのキャンセル料補填は府より約束してもらっているが(それもまだ全額は入ってくる見込みが立っていない)、利用料金制であるため、開館を再開したが、利用者が戻らず利用料収入を見込めないため、施設の運営が厳しい。このままだと夏頃にオーバーフローする。

要望 | 施設・場所に対して（劇場、文化施設、公演、教室、ガイドライン） [5/5]

- 設問では公演以外の施設管理収入などが設定されていませんが、多くの公共ホールで公演収入以外にも貸し会場収入が大きなウェイトを占めています。（Q8-2には含んで回答しました）公共ホールでは利用料金の激減が予想されるなか、指定管理者への補償を利用減少額や利用者への還付額全てではなくキャンセル料相当額に限り補償するという府の手法に基礎自治体にならう例もあるようです。
- フラダンスはオンラインでは楽しめず、生徒がやめてしまっている。マスク、フェイスガードをつけて、エアコン、窓の換気をしてレッスンを再開したい。
- 入場料の値上げ。だがそのためにさらに観客を減らすかもしれない

要望 | 芸術家支援（プロ、アマ、若手） [1/4]

- 大阪府はこれまでも、アーティストに対する支援に関して、京都府のように力を入れて取り組まれている印象が少ないです。府内でもたくさんのアーティストが活動しているので、その人たちがこれからの展覧会や発表に向けて、制作を継続できるように支援する、助成金や給付金が必要だと思います。
- おとなりの京都は、市と府、また民間から芸術家に対する支援策が発表されています。いち早く自粛がはじまった大阪でも、ぜひそういった取り組みをやっていただけたらと思います。
- 劇場への補助だけでなく、演奏家や団体が主催する自主公演が多くあります。芸術家個人への給付制度、大阪で活動する近畿の近隣の他府県への芸術家にも目を向けてください。また、劇場の収容人数の50%では、採算が取れず赤字にしかありません。結局コンサートホールでは、演奏できないということになります。今の制度の谷間にいる人々に目を向けて、一部を理解を深めていただきたいです。
- 交流、実演を伴わない芸術文化は衰退し、その損失は計り知れません。私は演奏家ですが、毎日の殆どの時間を練習に費やし、その時間に対して収入はありません。AIには全くできない活動で貴重なもので、その為に日々の研鑽にかかる費用も大きいです。速やかな支援を熱望しています。
- 施設に対する補償はあるが、個人に対する補償、特に有料施設を利用している場合は、セミプロであっても補償してほしい。
- 今回、コロナウィルスの影響で、芸事のみを生業としていた私は、行先、生計が立てられなくなるのは目に見えています。このままではすぐに貯金が底を突きます。年内に転職を考えてはいるものの、悲しいことに30代での転職も企業側からは冷たい対応を受け、なかなか新たな収入源を確保できない状態です。国からの支援や融資は色々行って頂いているのは承知しているのですが、コロナウィルスの影響により、死活問題へと発展しているダンサーは数多くいます。更なる支援、融資を検討して頂き、再起復活の時期が到来するまでの間、私たちダンサーをなんとか生かしておいて貰いたいと切実をお願いしたいと強く申し上げます。
- イロイロな事に時間を取られて、制作に集中出来ないことが非常に残念です。
- アーティストにも分かりやすく支援策を、早急にして欲しいです、

要望 | 芸術家支援（プロ、アマ、若手）

[2/4]

- 学生でなく、まだ売れていない、アルバイトで生計をたてている表現者にも支援がほしい
- プロへの支援がまず当然必要だと思うが、大多数のアマチュアの(活動や心の)ゆき場も気になるところだ。
- 実績の少ない若手作家への支援を拡大していただきたいです。
- 若手作家同士でオンラインで集まり、作品プランや近況報告をyoutubeで配信することで生活や創作での不安を共有して、モチベーションを維持できるように取り組んでいます。作家の中には精神的に不安定な人も多くいるので、その人たちへのケアが今後は必要になると思います。
- 他の職業同様、プロ芸術家に対するキチンとした支援をしてほしい。
- スタジオのメンバーで京都市の奨励金を申請していますが、もらえるかわかりません。キャリアの浅い若手向けに比較的ハードルの低い支援策があればいいなと思います。
- 休業要請などが、運営している施設の管理者などにむいているものばかりで、個人として早くから活動が出来なくなっていた私たちに向けてのものが、もっと自治体から出てきてくれたら嬉しいなと思っています。箱を助けるだけでなく、中身も救って欲しいものです。
- コロナの影響を受ける以前からから、創作活動とその対価への理解は低いと感じることが多い。もともと利益が少ないため、芸術活動以外での収入も減少しているにもかかわらず、支援金事業の対象になれない。
- 目指すことのできる助成金制度も少なく、作家として活動をつづけるには支援や補助が少ないと感じる。

要望 | 芸術家支援（プロ、アマ、若手）

[3/4]

● 音楽活動とグラフィックデザインで今年から個人事業主の開業をしていますが、音楽活動は以前から長い年月しております。ライブハウスやスペースへの支援はありますが、音楽家への支援が少なくこれは以前からですがわかりにくく一部の情報を持った人だけが助成金などを利用しているように思いますし、音楽家への対価が余りにも低い為 コロナ以前からですが、グラフィックの仕事もはじめました。現状は、貯金を切り崩して生活費に充てていたり 音楽の演奏は配信での予定がありますがそれほど収入は見込めないと思います。自分は厳密に言うと神戸市民なので大阪でもよく音楽活動をする為にそして今回中止になった公演も大阪も含まれるためにアンケートに答えています。あと基本的に 健常者の方達への考え方しか見受けられないので、私は身体障害者なので、海外にツアーに行く予定があっても機材が重すぎてなかなかいけないとか、おそらく普通の健常者の方が考えたことがないような問題を持っています。なので収入はグラフィックデザインの仕事と演奏活動の報酬と音楽作品の売り上げと障害基礎年金ですが、年の所得が130万くらいで 生きていくのにも必死です。音楽活動の報酬は少ない。言い値ではあるのですが、素人の方々が無料でも表現したいと言うアマチュア感覚が多いのとそれらの人で成り立っている現状もあるかと思えます。アマチュア感覚がよくないとかではないですし、自分の表現も何かの資格や、メジャーな資本に支えられてるわけでもない全く独自の表現なので、勝手にやってるだけ と言われたらそうかもしれませんが、この活動にかけている 自分での投資は相当なものですし、作品をインディーズレーベルからリリースしていますが海外からもギグに誘われたりもしていましたがコロナで行けなくなりましたし、先に述べたように簡単に動きにくいということもあります。ご自由にお書きくださいとのことなので そうさせていただきました。音楽の質に関して自分自身で それは 測りかねるものでありますが 本来は。しかし これだけやって音楽での収入がおこずかい程度な ムードに包まれてる文化だと音楽で食べていこうとか 思いにくくなりますね。確かにライブハウスやPAさんが居ないと 現場は成り立ちませんが、彼等の貰う報酬より演奏者の方が少ない場合が多い。それは自分が決めているからかもしれませんが、風土が演奏者に対しては緩いと思います。他の取り組みは それでも月に何回かライブがあると 収入になって生活費の足しになっていたのですが、その分準備にかかる時間が長いので グラフィックの仕事はその間、休止しているので、結局金銭的には自転車操業ということに変わりはないです。どうにかなるならどうにかして欲しいです。ライブが強制的に減ったのは、いい面もあります。少ない報酬で多くの時間を使って挑まないといけなかったのが減ったので、楽曲の制作時間が増えました。千島財団のことは前から知っていましたし、利用している人も周りにいますが、自分のような 外に出て仕事やバイトも困難な者に対して 注目もされてないのだなと思っていました。何か変わってくれば、いいなと思いますし、いろんな申請とかの仕方も知らないというのもありまして 個人でやっている次第です。

○ パフォーマーをしているのですが、下記が生活の現状です。ポールダンサーとしての活動に重きをおいており、普通のお芝居の舞台だけでなく、ナイトクラブ等のまだ規制がかかっている場所での出演が収入の大半をしめています。現状、ナイトクラブ等の規制が緩和されたとしてもお客様の入りが戻らなければ、ダンサーは出演でよんでもらえません。規制がなくなったからといってすぐに仕事が復活するわけではないため、仕事の開催までかなりのタイムラグが予想されます。他にもストリートダンサー、忍者パフォーマンスなど多岐にわたり活動していますが、結局はパフォーマーとしての仕事しかしていないため、現状収入がなく生活に困窮しており、いつかスタートするであろう日のためにスタジオ練習などはしなければならず、出費だけが嵩む状態です。これしか能がなく学がないため、どのような支援があるのか？自分はその支援をうけるのに該当しているのか？も、よく理解できておらず、資料をみても結局なにが言いたいのかわからず、問い合わせの電話も繋がりません。一律給付の10万に関しても、申請は出しましたが入金されるまでに時間がかかりその間は どうやって生活していいのか？と、生活をかなり切り詰めているというのが現状です。私と同様にこれだけで食べていってるパフォーマーはかなり厳しい生活を強いられていることを理解してもらいたいです。

- 関西のプロオケの支援、フリーランスの活動支援
- オンラインで表現者が手軽に発表できる設備を作ってほしい。
- 空間、カメラ、マイク、スイッチャー、インターネット回線、そしてオペレーターがセットで安価に利用できるサービスを始めると、表現者が発表できる機会を得ることができる。

要望 | 物品支給

- 上演に際して消毒薬やマスク等安全策の支援があると助かる
- 企画中のイベントは野外発表となりますが、その際の防疫対策の備品（手指消毒キットなど）が支援されると大変助かります。
- 文化芸術活動の拠点には、官民間わず、利用される方が安心安全に活動を行うことができるよう感染防止のための備品、消耗品（衛生物品等）が配備される必要もあると思います（現状は利用される方個々の負担も大きいと感じています）。

要望 | ネットワーク・情報交換・窓口 [1/3]

- 支援金も必要だが、上記の不安にどう対処したらいいのか相談できる場が欲しいと感じる。
- 簡単に支援を呼びかけられるシステムの構築や、情報共有。また、感染拡大時に受けられる支援などの周知。支援対象条件の簡潔明瞭さ。無観客公演や生配信の仕方などのやり方や注意点のマニュアル作り。
- ウィズコロナに向けたガイドライン議論の場づくりとその発信、発信を通じた観客への啓発。
- 活動再開にあたってのガイドライン、また今後来るかもしれない第2波がきた時の活動休止等について情報交換ができるネットワークが必要だと感じています。また、新しい取り組みについて前向きに事例や情報を共有できる場やネットワークも必要だと感じています。
- オンラインツールを通して、場所を問わず広く作品をみてもらえるようになりましたが、やはり「実物を多くの人に見てもらいたい」という純粋な欲求を持っている人は多いと思います（それが全てではなかったとしても）。定員の制限等による収入の問題は緊急かつ長期的な課題としてあると思いますが、「ぜひ来てください」とご案内することに抵抗感を覚える状況が続くことの精神的な負担が、これから大きくなっていくのではないかと思います。精神的なケアや相談窓口といった支援も必要になってくると思います。
- 今回、場や機会を失ったと同時に、新たな方法を獲得した側面もありました。また、文化芸術の経済的な脆さは明らかになりましたが、「生きる」ということを考えるとき、それが切り離せないこともわかりました。いずれにしても、まだぼんやりした状況の理解のままで、きちんと整理がついていません。そしておそらく皆さんそういう状況なのだと思えます。時期がきたら、面と向かって、そういったものをお互いに明らかにしあえる場があると嬉しいです。
- 公演を実施するにあたって、これまでにはなかった必要な注意点や必要対策などを共有できる機会があればと思います。DIVE（大阪現代舞台芸術協会）に加盟していますので、そちらにも提案を発言できたらと思っています。

要望 | ネットワーク・情報交換・窓口 [2/3]

- 器楽演奏、特に管楽器の演奏に際しての予防の目安がわからず、緊急事態宣言が解除されたが練習再開の判断ができない。海外の事例などでも良いので情報をまとめて発信していただくと助かる。
- この4月から、音楽教室を開くつもりでした。この状況で開くことができず、また準備も終わっていない状態です。いつ開講できるのか見通しが立たない今、どんな準備をしたらいいのかもわかりません。音楽教室を自室でやられる方と繋がれたら…と思うばかりです。私のような若輩者に対して、そういう機会をお作りいただければとても助かります。
- 活動を制限されている中で、これまで通りのことは無理が生じることが多いけれど、積極的にオンラインでも話ができる場があるといい。それも、今すでに書店や一部のイベントが行っているものではなく、もっとパブリックな立場（これまで文化や芸術にそれほど触れていなかった人たちが目にするという意味）のところが、レイヤー分けをしてもよいのでさまざまな業種、自分と異なる人たちの実感やアイデアを耳にする場を提供することがあればいいなと思います。
- それぞれの施設の活動を紹介したりお客様がアクセスしやすくなる情報を提供してくれるプラットフォームが大阪にもっとあればありがたいです。
- 支援策について：プロ・アマ問わない、また特定のジャンルのみではない、文化活動への様々な支援の枠組みと、それに対応する窓口・専門人材の配置がセットで行われると良いと思います（経済的な支援、新たな取り組みに関するアドバイス、活動を再開・継続するためのガイドラインや感染防止対策等に関する相談、精神的なケアなど）
- その他：未知への対応が急務となる中、施設間の情報共有ネットワークだけでなく、自治体（職員）のネットワークも必要であると感じました。また、こういった状況下における文化芸術の意義や役割、そのための文化拠点のあり方についても議論していく必要があると思います。

要望 | ネットワーク・情報交換・窓口 [3/3]

- Q10で「困っていない」と回答しましたが、難しさを感じているのは、コロナウィルスに対する捉え方は人それぞれであるので、活動を再開するうえで、こういった基準で進めていくかということ。6月より活動を再開していこうと考えているが、ルールを決めきってしまうのではなく、現場を開けながら、スタッフや参加者含めて適宜相談・対応ができる環境をつくりながら進めていくことが重要なのではと話している。ウィルス自体は撲滅する訳ではないので、一斉に中止・解除というトップダウンの判断ではなく、現場の状況（会場の環境や集客数など）に応じて、各団体が対策をとりながら判断していけるような体制になっていければと思う。

要望 | 無観客ライブ配信に関して

- 大阪府文化芸術活動（無観客ライブ配信）支援事業補助金の申請、企画を検討しているが、今夏までと期間が短い為、第二波、第三波を想定した上での秋以降の公演に使用出来ない。可能であれば期間を今年度中まで伸ばす事も検討して頂きたいです。
- 無観客ライブからの発展形WEBライブの策定。
- 無観客配信というよりは現在の状況における、制作、発表の取り組み。
- オンラインレッスンや会議など、ネット環境によっては画像が止まってしまうたりするので、その改善方法を知りたい。地域としてネットのインフラを強化して欲しい。
- ライブハウス等でのストリーミング配信を実践したが、小さな拠点で活動を継続する任意団体の場合、マンパワー/テクニカル共に不足の課題があるため、現場実践を進行しながら申請手続きについても事務手続きの負担が大きいと感じた。
- 大阪は普段から公的な芸術活動への支援や活性化させる取り組みが乏しく感じている。芸術や文化への知識や思考がなされていない。その為ライブ配信のみ支援したり、ちょっと取り組みが意味不明。
- 大阪府文化芸術活動『無観客ライブ配信』支援事業補助金が施設事業主しか申請できない。我々施設を借りて公演しているものにも無観客ライブ配信支援が必要

要望 | 大阪府文化振興補助金・大阪市芸術活動振興助成金の改善

- 大阪府文化芸術活動支援事業補助金には、美術が含まれていません。ぜひ含めてください。または、大阪市が独自に助成金制度を作っていただけることを願っています。京都市に比べて大阪の文化行政は美術が、抜け落ちています。物価の高い大阪から他府県への移動も考えられます。
- 半額助成・補助は、この状況で厳しい(普段でもこれがネックになっていると思うが)。海外では事例がないと聞きます。全額助成を様々な場面で認めれる内容の支援策を望みます。
- 大阪市拠点の個人が、他地域で活動する場合の助成金・補助金の必要性を感じている。
- 文化振興助成金を次年度に継続して欲しいです。子ども対象のイベントを秋に企画していますが、集客に不安があります。学校行事がどのように入ってくるか予測が立たないのです。市報掲載、開催地域にチラシ、Facebook、SNSなどを使って幅広く参加を呼び掛ける予定ではあります。
- 10月末の演奏会開催について、延期の場合助成金を受けられない可能性

意見 | 文化施策について [1/5]

- Q2が古い。リアルで発表しなくて創作だけしている人もいるし、場所が必要じゃないアートも結構ある。音楽はライブ以外はデジタル配信は当たり前なのだし。映像制作者も今はどこかで上映というより、youtubeとかvimeoをじゃなくて？
- 行政と少し距離を保った民間の活動が活発なところは面白いと思う。ただ、民間の場合少し身内（知り合い同士）での支援の様などころがあり、公平性に欠ける部分があると感じる。京都市立芸大出身なので、大阪の芸術活動支援先との接点がありません、今でも発表や様々な活動支援などを京都市で受けている状態。もう少し、大阪が文化芸術的に魅力的な都市になればいいのになとコロナ関係なくいつも思っています。
- まだまだ先になるとおもいますが、大阪市主催で演劇祭を実施してほしいです。
- 困窮し孤立した人々に文化芸術が関わり取り組めることはたくさんあるとおもう。事業として取り組みたい。長年社会包摂型芸術に取り組んできているが、芸術分野からもまた社会や福祉分野からもその理解は充分ではないと感じている。コロナはそういう意味ではチャンスだと思っているが、そうした取り組みへの政策提言、調査、パイロット事業、評価など、できないだろうか。
- 新型コロナの感染拡大防止のために、まず医療現場への支援(寄付や民間に頼るではなく)にもっと力を入れるべきだと考えます。それがあってからの経済支援、であると。そうでなければ文化活動の再開も遠のくのではないのでしょうか。自己責任とするのは、無責任です。都市の規模が違うことは承知していますが、すでに美術館、博物館を開館している和歌山の対策などもっと参考にすべきではないのでしょうか。
- 短期、中期、長期的視点に立ったそれぞれの支援策を講じる必要がある。芸術事業においては、中期的な企画を掲げることが市民の目標や生きがいのサインポストとなる役割がある。感染拡大時に、そういった企画が中止に追い込まれた場合を見据えた保険のような、杖となる支援が特に足りないと感じる。そういう杖となる支援があれば、見通しのつかない中でも企画を起こそうという気になる事業者も多いのではないかと。
- web上での新たな施策に取り組むために、例えば仕事減少しているフリーランスのwebエンジニアとのマッチングの場があればいいと思う。

意見 | 文化施策について [2/5]

- 大阪におけるあらゆる文化事業に力のある方々の支援、下支えを早急をお願いしたいと考えています。このままでは大阪の文化はおよそ多様性とは真逆の方向に向かい、世界と対等にわたりあえるものが生まれてくるように思えません。私たちの街である大阪から、世界に誇れる、独自の文化が羽ばたくことを切に願っています。
- 私は大阪府民ではありませんが、アンケートで終わりではなく、大阪でも活動する文化芸術活動に関わる全ての人々が少しでも安心して活動を再開出来る施策に繋がる様に望みます。個人の力では余りにも限界値が低過ぎると感じていますので、頼ってしまい申し訳なさもありますが、期待しております。
- 私は兵庫在住で大阪での活動が多いのですが、支援をしている都道府県に在住の人に限られていたりする案件が多すぎて当てはまるものが少なく、できるなら関西圏で協力しあって助けて貰えたらいいのと思っています。
- 正直なところ、今年度はたまたまコロナの影響を受けない仕事だったというだけであって、アートマネジメントが将来的に不安定で本来的に低賃金の労働であることには変わりありません。「新しい生活様式」のためだけでなく、コロナ禍がおさまったとしても、過去の”にぎわい創出”や”集客”の指標に応えないと対価が得られない労働には後戻りしたくない気持ちがあります。（芸術分野だけでなく）労働者として経済社会に貢献しなければ生きてゆけない状況に対して、すべての人に平等に文化的な生活を保障するための文化政策および芸術文化支援を願います。（具体案でなくてすみません）
- 大阪は文化に対して冷たい。東京都、愛知県、その他都市では芸術家を支援をしているところがある。ドイツやアメリカでも芸術家に対する支援を行なっている。そして、文化に手厚い都市、ベルリンやNYは住む人にとっても魅力的である。自粛生活で、映画、映像、音楽などに触れ芸術の重要さに気づいた人は多いと思う。大阪は早く芸術を大切に、魅力的な都市になるべく率先して芸術家を保護していくべきだ。

意見 | 文化施策について [3/5]

- 文化芸術活動は一番早く自粛対象になり、一番遅く再開になると思います。技術の向上のために、日々の研鑽が必要であり転職やアルバイトもできません。日本はもともと芸術家への支援が少ない国ですが、それでも自分の道と思ってコツコツ細々と活動してきました。このコロナ禍で皆さん大変なときに申し上げるのは心苦しいのですが、2020年の1年ではすまないほどの損失が出ています。一度中止になった仕事は、スポンサーの体力もなく、この機会に打ち切られるものが多いです。贅沢をしたいわけではないですが、このままでは芸術家は皆廃業するしかありません。文化は不要不急ではなく、必要不急です。活動を再開できるまで、芸術の道にすすむ国民をどうぞ助けてください。
- 隣の芝生は青いというけれど、ドイツのように芸術に携わる人の支援がほしい。
- 困難な状況ほど、新しい芸術は生まれるが、経済の不自由、発表の日不自由が長引けば、疲弊します。
- お金が生み出しにくい舞台ですが、文化やコミュニティーは生まれやすい芸術だと思っています。長期の稽古、本番当日その場にはないと味わえない空間、劇場、舞台関係者、観客の三者がとても奇跡的に繋がっているのが舞台だと思うので、その貴重な価値が前以上に薄れないことを祈るばかりです。
- 文化・芸術に携わる人間(もちろん、フリーランスも含む)全員が安心して生活ができるような支援、保障を早急にしていただけたらと思います。今の日本政府は本当に対応が遅すぎます。
- 維新の会による緊縮政策がある限り、大阪の、また日本の芸術は二度と日の目を見ることはないと考えています。
- フリーランスの方や公演中の団体が収入もなく借金している現状を政府がもう一度考えていただきたいです。吉村さんのマグカップ作ってる暇あったら支援してくださいと思います。
- 生きていくために芸術が必要な人もいるのでドイツ並みとは言いませんがそれなりの支援をしてほしいです

意見 | 文化施策について [4/5]

- アルコール提供している飲食店で客がはしゃいでるニュースをよく見かけるが劇場の方がよほど安全だと思います。
- 芸能・芸術活動等はどうしても生活に必要がない、と優先順位が下がりがちですが、『人間らしい文化的で豊かな生活』を考えた時に娯楽というのは非常に大きな役割を担っていると思います。活動維持のための支援金や助成金等も助かりますが、それ以上に世間が『こういう時こそ芸能・芸術を』という空気になってくれるような働きかけが出来ればなと思います。
- 非常に芸術が軽んじられていると感じます。
- このコロナ禍で、文化芸術は「不要不急」のものであるかのような風潮が広がりました。これからは、文化芸術がどのように「必要」であるかを、個人も行政も明確に、時にはデータを示しつつ、定性的かつ定量的に発信していかなくてはなりません。自分に何が出来るかはまだわかりませんが、模索していきます。
- 芸術従事者が、労働者としてみなされない、差別的な扱いを受けることが精神的につらいです。背景には、芸術はあくまでも娯楽であるという認識が根強くあるためだと考えます。娯楽だけではない、文化芸術の必要性を、教育の中で問うていく必要があると感じています。
- 見通しが立たず不安です。今こそ芸術が必要、との思いはあります。
- フリーランスの舞台裏方スタッフです。年内いっぱい劇場自体は再開しても、仕事はないのではないかと不安です。公演をするにしても、ソーシャルディスタンスを守りお客様を減らすとなれば、チケット収入は減り、赤字になります。これでは公演を行える筈がありません。映像配信などもありますが、舞台は、舞台の役者とお客様が、同じ空間で同じ息をし、空間を共有する事で舞台になると思っています。映像でしたら、映画やテレビ番組やYouTubeの方が面白く、舞台配信の意味はあまりなく、舞台ではないと感じています。

意見 | 文化施策について [5/5]

- 大阪府内の芸術文化が衰退しない様、芸術団体、芸術活動に対する支援をお願いします。特に、未来を創る子どもたちに対する芸術支援は必須であり、自治体がすべき仕事だと思います。よろしくお願いします。
- 一言で言うと、コロナウイルスによる一連の動きは、地球が悲鳴を上げて、人間のエゴに対する注意喚起だと思う。3.11の原発事故が全く教訓になっていない。経済成長だけではダメだし、文化芸術が全てでもない。もっと地球のことを考えて一人一人が行動をするために私たちは何ができるのかを考えていきたい。
- 特にオーケストラ・オペラ関係の仕事をしていますので、観客がどのようにして会場に戻ってきてくださるのか不明であり不安です。弊社代表は大学の非常勤教員もしておりますが、歌うことや吹くことが、いまや一番の厄介な扱いです。ましてや複数の人間が息を揃えるということなど…悲観的な考えばかりが頭をよぎる今日この頃です。オンラインでの合奏などに機材の能力差や編集の技術力をもつ者がもてはやされるようになることは避けたいですね。ライブこそ演奏家の命。アナログが悪にならないような世の中にしないと。

意見 | その他 [1/2]

- 提案として、公共交通機関を減らすことで移動を減らすのではなく、増やして密集を避ける、そのための交通機関への援助するというのはどうでしょうか？
- 私は他に仕事があって生活は出来ていますが、まったく仕事の間が無くなった方々への支援をお願いいたします。
- ベーシックインカム希望
- 収入がなく、即座に生死に関わる状態の人間が大勢います。そんな時に、分かりにくい給付金の手続きなどあってはならないと思います。現在も苦しんでいる人間がいる事を考えて、早く受け取れる方法を考えて頂きたい。
- 雑所得でも持続化給付金の申請をできるようにしてほしいです。
- 国と府と市で、直ちにベーシックインカムの導入をお願いします。
- 現在、給与は8割補償。非正規スタッフのみ、7月で給与見直しがあり、再開の見通しが無ければ解雇がよぎる。元々の給与が少ない為にかげ持ちをしていたスタッフも多い。かけ持ち先がコロナで休業も。現状既に厳しい。
- 給与、雇用の維持を望む。
- 消費税等、一時的にやめて欲しい。
- 給付金が1回の意味が分からない。
- 雇用先や所得に応じてベーシックインカムも考えて欲しい。

意見 | その他 [2/2]

- ベーシックインカムで国民生活の支援をしてほしい
- 支援金や給付金の継続
- 労働者へ収入減の断続的支援給付金
- 国がもっと給付してほしい
- 嘘のない政治を希望します。危険が判断しかねるので
- 持続化給付金は国も府も市も50%減収でないと該当しない。50%減収になったらもう持続不可能で、そうでない間の支援が必要なのに。全く何の支援にも該当しないが苦しい。
- 手厚いあらゆる分野での支援をお願いします。
- 政府の主導による自粛要請が原因で仕事量が90%以上失われた状態が秋以降も続きます。事業継続を希望しますが先行きが全く不透明です。抜本的な経済支援を期待します。
- 休業要請支援金申請において質問があるがなかなか電話が繋がらない。

不安 | 金銭面

- 劇団にも入ってません。昼間は生活の為にアルバイトしています。でも年間に5回程舞台に立たせて貰っている役者が、ここに、居ます。そして、アルバイトも休業。お金借りて返すという事は余りしたくない。
- 勤務先が、雇用持続助成金を申請してくれており、仕事を休まざるを得なくなった2ヶ月分の減収は、8割方給料として支払ってくれているので、助かっている。ただ、いま手探りで延期になったイベント開催に向けて模索しているが、もしこのままイベントが出来ず、また雇用に関する国の支援もなくなっていくとなると、どうなるのか、不安である。
- 展覧会のオンライン化を進めています。撮影や機材、郵送にかかる新たな費用が多くなるので赤字にならないか心配です。
- 給付や支援策のスピードが遅すぎる。舞台技術関係者やイベント制作会社は一番経済損失が大きく、一番長い期間減収が予測されるのに、今まで支援策が全く、休業補償の給付金も対象除外され不安しかなかった。

不安 | 活動面

- 300人定員のホールで200人程度のチケット収入を見込んで入場料を設定した場合、固定費としてかかってくるホール使用料は値下げされず、赤字覚悟で従前の入場料で実施するのか、コロナ後は値上げするのか？値上げしたことにより来場者が減ってしまわないか？不安要素が尽きない。
また、これだけネットによる無料配信をする人が増えて、その環境を整えられない演奏者は市場から忘れ去られてしまうのではないか？という不安もある。
- 劇場での公演開催を望んでいる身としては、いつ再開出来るのか、客席数を減らさねばならない中でどうやって収支を合わせれば良いのか、見通しが見つからない事ばかりで不安があります。無観客配信や、公演ライブ配信などやりようを考えるしかないのかと思います。配信に向かない作品は上演出来ないのか？配信に合わせた作品作りを（自分は）したいのか？などを考えてしまいます。
- 今までにない緊急事態であることは理解していますが、大阪府市の対策に不安が多く、このまま活動を続けられるのか、自分の気持ちもつのか不安が大きいです。
- 幼稚園児～小学生に向けたバレエのサークルを運営しています。集会所を借りて開催していますが、施設内の各箇所を使う除菌スプレーやクイックルワイパーなどが集会所には置いておらず、主催者が各自持ち込みなので、負担がかかる。夏場のエアコンと換気の割合、マスクの着脱(特に小さい子どもの体調管理、酸欠や熱中症)への不安、など対応をどうするか頭悩ませています。
- オンラインで出来そうな表現活動は補助金でオンライン上演し、オンラインで出来なさそうなものは延期にしています。ただ、ホントに中途半端に劇場などが開くことが非常に怖いです。(クラスターが発生するかもしれないとかそうなれば風評被害とか)

不安 | 気持ち

- いつまで続くか分からないこの状況を収束するのを待つ事しか出来ない状態から1日も早く解放されたい。具体的に何が出来るのかわからない。
- メンタルヘルスの不調とまではいかないが、めまぐるしく変わる状況下で精神的にも変化が大きく創作に結びつけにくさがある。個人の問題だと思いますが。
- 先の見通しが立たないのが辛いです。

実践（している/するつもり/すべき） | オンライン [1/3]

- オンラインでの稽古会
- オンラインのシステムを活用した作品発表の企画
- 劇場や飲食店などで動画配信（トークなど）
- 主に小中学生向けに、遠隔でのワークショップの動画配信を行政と連携して進めています。
- 寄付金10万円を大多数に支援していただき、あらゆるカルチャーに使えるスペースの購入。
- オンラインでの脚本提供及び演出による一人芝居演劇の映像作品の制作及び配信。
- オンラインレッスン
- 小規模のコンサートを企画中です
- 現在、SNSに4/8～1日2曲演奏を投稿しています。演奏家として今出来る事、そして、また演奏活動が再開出来た時の為に努力しています。
- 自費で揃えた機材でのライブ配信
- 中止になった展示のかわりにスタジオの運営側のバックアップもありスタジオのメンバーと通年のプロジェクトをはじめました。状況にかかわらず文化への継続した支援は大切だと思います。

実践（している/するつもり/すべき） | オンライン [2/3]

- リモートコンサートや動画公開
- 自分の演奏をYouTubeで配信する事を始めました。
- ONLINEでの販売拡充のためのウェブサイトの刷新
- オンラインを用いての映像を使って発信する美術館の企画に取り組んでいる。
- ネット配信を用いた自身の作品の発表及び交流会の実施
- オンライン展示、動画配信
- 音楽と違ってオンラインで表現するには時間がかかりすぎるので、リアルタイムでは難しいので、事後編集とかをどう表現するか、また、新しい表現方法を模索中です。
- 実践していることは作品の発表をライブ配信で行ったりしています
- オンラインのための作品作り
- オンライン化にシフトを移した
- ZOOMで新歓をおこなっている。

実践（している/するつもり/すべき） | オンライン [3/3]

- リモートイベントや無料配信
- 配信などを行っています
- 自身のSNSアカウントを使用し、作品を発表している。今後、動画共有サイトにアカウントを開設するか検討中。
- ONLINE販売拡充に向けてウェブサイトの刷新に取り組んでいます。
- ウェブショップの強化
- インターネットを使ったオンライン稽古など
- 3月に実施予定だった前年度の主催公演を延期、今年度の主催公演のひとつを中止、ひとつを延期する予定で計画中です。延期といっても、練習期間も必要ですので、いったいつから活動できるのか目途が立たず、第二波のことも心配で、途方に暮れています。ですが、何もしないわけにもいけないので、これまでの活動を映像で編集し、近く公開するつもりでいます。
- リモートによる演奏参加募集企画
- すでに実践している取り組み：オンラインでの事業の実施、拡充の検討をしています。

実践（している/するつもり/すべき） | 非オンライン・複合 [1/2]

- 映像でもよい、演劇の形を成してなくてもよいのでとにかく創作・発表を続けてモチベーションが下がらないようにすること。団体内で頻繁に連絡を取り合い、構成員が孤立しないようにすること。
- 「劇場に足を運んでも怖くない」という安心感が全方位的に必要で、そのためにリハビリ期間として団体や劇場がまず取り組んでいけるようになると良いのではないか
- カンパでの公演
- 朗読等の舞台表現のオンライン配信
- コロナに負けずに頑張っていこうというチャリティイベント開催を提案中
- 中止になった場合を考え、損失や人員を最低レベルで考えての公演の実施へ向けての稽古等
- オンラインであたらしい形のイベントを作ったり、別の表現方法の提言、正しい衛生管理の伝え方など
- ウイルスや人が悪いわけじゃないのにこんなに不安や不満が募ってそれらと対立してるのは誰かが仕組んだ罠なのかなと思う。政治家がわたしたちのことばかりにしてるのがよくわかった。今後は「中止にならない」やり方とはなにか、これまで他者（購入者と取引先、社会）に利益がある仕事でありたいと思っていた考え方を修正する必要があると模索中です。
- 美術作品をオンライン、オフラインの両面で販売しています

実践（している/するつもり/すべき） | 非オンライン・複合 [2/2]

- とにかく私たちみんなが見て楽しい展覧会を協力して開催していく
- 作品及び資料の整理
- 以前とは異なる形でも制作と発表を始めているので、様子を見ながら進めていきたい。
- 6月半ばに10人以下のメンバーで合唱の練習再開を予定している。
- イベントを二部制にするなど、入場者数制限による減収の回避
- 演劇でなく美術の観点から中止となった舞台公演の演出にも転用できるプロダクトの制作を進めている。
- 大阪府知事、府議会議長、大阪市長、市会議長に要望書・陳情書を提出
- 改修を経て9月にリニューアルオープンしますが、今年度のプロデュース物の事業についてはリスク回避の為、動画配信も併せて実施する予定です。
- 映像作品づくり
- 寄付を募る

実践（している/するつもり/すべき） | 支援

- 私は給与所得者なので、できる範囲で周囲にいるアーティスト達を個人的に支援しています。具体的には作品を購入したり、現金のカンパなど。気持ち程度ですが。
- 自作品を発表してその配信料によって、自身や損失のあった団体に還元できるという仕組みを作った組織に作品を提供したりした。
- お世話になった小劇場に対して些少の支援金振り込み
- 今は、表現者としての発信はほぼ何も行えていないが、小劇場エイドなど、新たに立ち上がっているコロナ対策支援に署名や支援金を送るなどして、コロナ後に再び舞台に立てるための準備を進めている。
- 実践している支援として、芸術文化に関わる新規事業や、地域創造と働き方改革に関わる新規業態の応援（無償での技術提供、あるいは資金提供）などを行っています。

現況・その他 [1/3]

- 以前の生活やシステムに戻れないと割り切って、新しいことを考えていきたいと思っています。
- 各自前向きに半歩でも進む方法を考え行動してます。
- 新しい生活様式ではないが、新しい表現様式というのができてくるんだろうなと思ってます。様々な点で。
- 人との繋がりを維持し広げること。
- 不要不急の外出を避けています。
- しばらくは国内での活動が難しそうなので、海外（アメリカ）と美術やそれ以外の仕事に関するやりとりを始めています。
- 堺市の画廊と相談しとりあえず個展を5月から10月に延期
- 公演中止により収入がなくなり、稽古場への出入りも出来ず、別の仕事も自粛になってしまい、生活基準も保たない程になってしまい、心身共に疲れてしまった。
- 身体やメンタルを早く回復させて仕事や公演復帰したいがなかなか上手く動けない。生活保護も考えているレベル。
- 前例の無い事象でとても難しい問題ですが、国民感情が回復する情報が早く出回ることを望みます。
- 徐々に考えて行っている段階です。

現況・その他 [2/3]

- 現在、仕事もなく、無職状態です。この歳で就職先もほぼ無く、どうしていいかわかりません。一日も早く終息するのを願うばかりです。
- ひとりプロデュースなので、資金不足なのでとりあえずお金貯めるために働く
- 密にならぬよう一人ずつの時間をとり終日きゅうじつなしをつづけている
- 作品発表の場が減ったり、作品製作・発表で創作に力を入れていたところに、「コロナ」が来てしまい、心身共に調子を崩し、立て直して、思いっきり作品製作・展示に力を注ぎたいです。
- フリーランスだとそもそも依頼が来なくなることに困っています。収入予定もなくなり、給付金の制度だと収入がある予定からなくなるといただけますが、そもそも依頼がないと証明ができません。
- 文化芸術活動とは無関係の仕事をしていますが、そちらの方がコロナの影響で収入激減。このままでは文化芸術活動する経済的余裕がなくなりそうです。
- 政府が、文化芸術施設・関係者への支援が必要だと思っていないように感じ、それが辛いです。ソーシャルディスタンスをとることが難しい分野のため（また、ワクチンも薬もないため）、取り組みを始めているというより、今はまだ活動中止という方法を取らざるを得ない状況です。
- 活動は大阪が多いですが京都住まいなので京都の芸術補助金の申請中です。
- 繰り返す危機であると考え、作品展示などの新しい在り方を創出し相互扶助する仕組みを模索している。
- どのような支援金が受けられるか、現在経理士に相談中です。ギャラリーは6/8から、再オープンです。コロナの一日も早い収束を願います。

現況・その他 [3/3]

● 日常のなかにもものづくりに携われる場として活動を継続してきたが、少人数ながらも高齢者の利用も多く、再開時期に悩み長期間活動を中止してきた。ただ、自粛が長引くなかで、人が集うことや話をする、つくる行為というものは、人間が生きていくうえ欠かせないものであることも鮮明に感じるようになった。中止するか／しないかの判断ではなく、どう対策をとれば開かれるか？という相談を関わる人たちと対話を重ね、活動を継続していきたい。

○ 特にない

○ 大阪府

○ お金ください

○ たすけて、おかねちょうだい

● アルバイト

● 正直なんともよく言えません

● 回答について：中止・延期の数については、当施設において実施される予定だった全ての数です（当施設主催のもの以外に他の主催者による催し含む）。

● 支援金や、クライアントの救済策により、なんとかできているところがあります。

● 次にまた波が来るであろうことを考えると、お金の支援や過去に戻そうという動きではなく、方法、ニーズ、これからの芸術について新しい形を模索する方向になればいいなと思います。

以上